

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 125 2019年4月25日 JR東労組

107名の命を奪った 福知山線脱線事故を風化させてはならない!

①発生から14年を迎えた脱線事故現場。周辺には新たに「祈りの杜」が整備された＝25日午前6時7分、兵庫県尼崎市、水野義則撮影
②脱線事故現場を訪れ、傷が残るマンションの壁を触る男性＝25日午前6時50分、兵庫県尼崎市、代表撮影



2019年4月25日朝日新聞(夕刊)

あれから14年 この場所で JR宝塚線脱線



長男の満さんとの思い出を振り返る齊藤百合子さん(左)と聖一さん(兵庫県伊丹市)

「祈りの杜」には事故を伝える資料のほか、遺族が寄せた手紙や追悼の気持ちを込めた品々を展示する施設ができた。「慰霊のこぼれ」を述べた齊藤さんが、「亡くなった長男の満さんにあてた手紙も紹介されている。」「こぼれ」は、「ただいま」。仏壇の遺影に声をかけるのが、齊藤さんの日課だ。日々、満さんと一緒に暮らしているように感じているが、悲しみが消える

「一緒に生きてよ」。たまたまなくなつて遺影に声をかけるが、願いはもうかなわぬ。

別れは突然だった。14年前の朝、百合子さんは伊丹駅で電車に乗り込む前の満さんと電話で話した。翌日が満さんの長男の2歳の誕生日だった。「お祝いしようね」と言った齊藤さんに、満さんは「うん。しよう。帰りに寄るね」と返した。

「私、今でも待っているのよ。あの時の二人の会話」が最後になるとは、もっと

2両目で負傷した土田佐美さん(60)は現場での式典について、「いろんなお気持ちの方がいらっしやると思う。私の気持ちとしては、その日その時間下手を合わせることができるとはすごく意味がある」と話した。

電車が衝突した9階建てマンションは1〜4階が階段状に残っている。「見るとのがつらい」との声があり、慰霊碑との間には樹木が植えられている。JR西は心理的な負担で事故現場を訪れることができない遺族らに配慮し、尼崎、伊丹両市内のホテル2カ所でも式典の模様を中継し、計28人が視聴した。

(波多野大介、飯島啓史)

「好きな曲は、遺族を伝える資料のほか、遺族が寄せた手紙や追悼の気持ちを込めた品々を展示する施設ができた。「慰霊のこぼれ」を述べた齊藤さんが、「亡くなった長男の満さんにあてた手紙も紹介されている。」「こぼれ」は、「ただいま」。仏壇の遺影に声をかけるのが、齊藤さんの日課だ。日々、満さんと一緒に暮らしているように感じているが、悲しみが消える

「一緒に生きてよ」。たまたまなくなつて遺影に声をかけるが、願いはもうかなわぬ。

別れは突然だった。14年前の朝、百合子さんは伊丹駅で電車に乗り込む前の満さんと電話で話した。翌日が満さんの長男の2歳の誕生日だった。「お祝いしようね」と言った齊藤さんに、満さんは「うん。しよう。帰りに寄るね」と返した。

「私、今でも待っているのよ。あの時の二人の会話」が最後になるとは、もっと

2両目で負傷した土田佐美さん(60)は現場での式典について、「いろんなお気持ちの方がいらっしやると思う。私の気持ちとしては、その日その時間下手を合わせることができるとはすごく意味がある」と話した。

電車が衝突した9階建てマンションは1〜4階が階段状に残っている。「見るとのがつらい」との声があり、慰霊碑との間には樹木が植えられている。JR西は心理的な負担で事故現場を訪れることができない遺族らに配慮し、尼崎、伊丹両市内のホテル2カ所でも式典の模様を中継し、計28人が視聴した。

(波多野大介、飯島啓史)

「好きな曲は、遺族を伝える資料のほか、遺族が寄せた手紙や追悼の気持ちを込めた品々を展示する施設ができた。「慰霊のこぼれ」を述べた齊藤さんが、「亡くなった長男の満さんにあてた手紙も紹介されている。」「こぼれ」は、「ただいま」。仏壇の遺影に声をかけるのが、齊藤さんの日課だ。日々、満さんと一緒に暮らしているように感じているが、悲しみが消える

「一緒に生きてよ」。たまたまなくなつて遺影に声をかけるが、願いはもうかなわぬ。

別れは突然だった。14年前の朝、百合子さんは伊丹駅で電車に乗り込む前の満さんと電話で話した。翌日が満さんの長男の2歳の誕生日だった。「お祝いしようね」と言った齊藤さんに、満さんは「うん。しよう。帰りに寄るね」と返した。

「私、今でも待っているのよ。あの時の二人の会話」が最後になるとは、もっと

2両目で負傷した土田佐美さん(60)は現場での式典について、「いろんなお気持ちの方がいらっしやると思う。私の気持ちとしては、その日その時間下手を合わせることができるとはすごく意味がある」と話した。

電車が衝突した9階建てマンションは1〜4階が階段状に残っている。「見るとのがつらい」との声があり、慰霊碑との間には樹木が植えられている。JR西は心理的な負担で事故現場を訪れることができない遺族らに配慮し、尼崎、伊丹両市内のホテル2カ所でも式典の模様を中継し、計28人が視聴した。

(波多野大介、飯島啓史)

原因究明委員会の議論と職場実践を強化し 仲間と共に安全をつくり出そう!